

試合形式

予選	6チームによる総当たり戦 試合時間 前後半 8 分、ハーフタイム 3 分（引き分けあり） 勝点計算 勝利 3 点、引き分け 1 点、負け 0 点
決勝	予選の結果を元にトーナメント戦を実施。 試合時間 前後半 10 分、ハーフタイム 3 分（引き分けの場合 PK 戦）

競技者

1. 競技者は 1 チーム 5 人とし、そのうちの 1 人はゴールキーパーとする。
2. 最大 7 人の交代要員がベンチに入ることが出来る。
3. 選手の用具はユニフォーム、背番号、ストッキング、すね当て、シューズ。
4. それぞれのベンチ前の交代ゾーンから競技者はインプレー中、アウトオブプレー中に関わらず、フィールドプレイヤーも GK も自由に交代できる。
5. 交代の回数に制限はなし。
6. どちらかのチームが GK を含め 3 人未満になった場合、試合は放棄される。

タイムアウト

1. タイムアウトは要求することができません。

競技の開始及び再開方法

1. ボールは次の場合にアウトオブプレーとなる。
 - ボールがゴールライン及びタッチラインを完全に越えたとき
 - 審判によって競技が停止されたとき

◇キックオフ

- 試合開始時のエンドとキックオフの選択はコイントスによって行われる。
- キックオフの際、両チームの競技者はキックオフされるまでピッチ内のそれぞれの味方半分内にとどまっていなければならない。
- ボールが前方に移動して競技が開始される。その際相手側チームの競技者はボールから 3m 以上離れていなくてはならない。
- キックオフから直接ゴールすることが出来る。

- キックオフを行った競技者は、ボールが他の競技者に触れた後でなくては再びボールをプレーすることは出来ない。

◇ゴールクリアランス

- ボールがゴールラインを越えたとき、最後にボールに触れたのが攻撃側の競技者であれば GK がペナルティーエリアの外にボールを投げる、ゴールクリアランスで競技を再開する。
- GK は、インプレー中だけでなく、ゴールクリアランスの時も直接ハーフウェイラインを越えてボールを投げる事が出来る。但し、これが直接ゴールしても得点は認められない。
- ゴールキックのように蹴られた場合、また、ペナルティーエリアの外に出る前に他の競技者によって触れられた場合はやり直しとなる。
- 相手側競技者はボールがインプレーになるまでペナルティーエリアの外にいないなければならない。
- ゴールクリアランスに関して 4 秒ルールは適用される。

◇コーナーキック

- ボールがゴールラインを越えたとき、最後にボールに触れたのが守備側の競技者であればコーナーキックでプレーを再開する。
- コーナーキックを蹴る際、ボールはコーナーアーク内に静止していなければならない。
- また、守備側の競技者はボールから 5m 以上離れなくてはならない。
- コーナーキックはボールが蹴られる状態になってから 4 秒以内に行われなくてはならない。越えた場合、コーナーからの間接フリーキックが相手チームに与えられる。

◇キックイン

- ボールがタッチラインを越えたとき、最後にボールに触れた競技者の相手側チームによるキックインでプレーを再開する。
- ボールをボールが越えたタッチライン上に静止させ、立ち足をタッチライン上か、その外側に置いてボールを蹴る。
- キックインのボールが直接ゴールしても得点としては認められない。
- 相手側競技者はキックインの地点から少なくとも 5m 離れていなくてはならない。離れなければ警告となる。
*キックインはボールを置ける状態になったと審判が判断してから 4 秒以内に行われなくてはならない。従って、キックインを行う競技者が交代している際や、ボールを持ちながら味方を探している際も 4 秒はカウントされている。

- キックインが正しく行われなければ、同じ場所から相手チームのキックインによってプレーが再開される。

◇フリーキック

- 反則があれば、その種類によって相手チームに直接FK、間接FKが与えられる。
- フリーキックの際、相手側競技者はボールがインプレーになるまで5m以上離れていなくてはならない。
- 間接FKが与えられる反則がペナルティーエリア内で起こった場合、その地点に最も近いペナルティーライン上からの間接FKとなる。

反則と不正行為

1. 競技者が不用意に、無謀に、過剰な力で次の違反を行ったと判断した場合、違反の起きた地点で相手側チームに直接FKが与えられる。
 - ショルダーチャージ
 - スライディングタックル
 - キッキング（相手を蹴る、また蹴ろうとする）
 - トリップング（相手をつまづかせる）
 - プッシング（相手をチャージする）
 - スピットング（相手を打つこと、または相手につばを吐きかける行為）
 - ハンドリング（FP、及び自陣ペナルティーエリア外にいるGKがボールを手で扱うこと、すなわち手、または腕を使ってボールを運ぶこと）
2. 守備側の競技者が自陣ペナルティーエリア内で故意に以上の違反をした場合、相手側チームにペナルティーキックが与えられる。
3. 競技者が次の違反を犯した場合、相手側チームに間接FKが与えられる。
 - 危険な方法でプレーすること（ハイキックなど）
 - ボールをプレーしないで故意に相手を妨害すること（オブストラクション）
 - ペナルティーエリア内にいるGKにチャージすること（キーパーチャージ）
 - コーナーキックやフリーキックの際、4秒以内にプレーが再開されないこと

- 。 ゴールキーパーとしてプレーしているとき、
 - ・ 味方競技者から意図的にパスされたボールを手で受けること
 - ・ インプレー中に自陣で 4 秒を超えてボールをプレーすること
 - ・ キーパーから出たボールが、ボールがハーフウェイラインを越えない、または相手側競技者に触れずに味方からのボールを受けること（これは、インプレー、アウトオブプレーに関わらず適用される。つまり、ゴールクリアランスも返せないことになる。）

警告と退場

1. 競技者が次の 4 項目の違反をした場合、警告が与えられる。
 - 。 反スポーツ的行為をすること
 - 。 審判の下した判定に、言葉や行動で意義を示すこと
 - 。 繰り返し競技規則に違反すること
 - 。 交代の手続きの違反をすること（交代ゾーン以外からの入退場など）
2. 競技者が次の違反をしたと審判が判断した場合、退場が命じられる。
 - 。 著しく不正なプレーをすること（得点機会阻止等）
 - 。 乱暴な行為をすること
 - 。 警告を命じられる違反を 2 度すること
 - 。 口汚い、または侮辱的発言をすること
3. 退場を命じられた競技者は、以後その試合に復帰することは出来ないし、ベンチに着席することも認められない。そのチームは退場後得点の無い場合には、2 分経過した後に競技者を補充することが出来る。（1 人少ないチームが得点された場合には、そのチームの競技者を補充できる。両チーム同数の競技者が退場になっている場合には、得点があっても共に補充できない）

得点

1. ボールが完全にゴールラインを越えて初めて得点となる。
2. 間接フリーキック、またはゴールクリアランスが直接ゴールに入った場合は得点は認められず、相手チームのゴールクリアランスで再開する。

ペナルティーキック

1. 守備側競技者が、ペナルティーエリア内で直接 FK に値する反則を犯した場合、相手チームにペナルティーキックが与えられる。
2. ペナルティーキックの時は、GK はボールが蹴られるまで、両ゴールポスト間のゴールライン上にいて、キッカー以外の選手はペナルティーマークの後方で、ボールから 5m 以上離れたピッチ内にいなくてはならない。

反則の累積

1. 反則の累積はありません。

ペナルティーマークからのキック

1. 順位決定戦で試合が引き分けに終わった後、勝者を決めるためのPK戦を行う場合、1チーム5人ずつで行い、決着がつかない場合6人目からはサドンデスとなる（残りのメンバー。それでも決まらない場合は始めに戻って順番通りに行う）。
2. キッカーとGKを除き、他のすべての競技者はキックが行われる反対のハーフ内に留まっていなければならない。
3. キッカーのチームのGKは、プレーの進行を妨げることなくピッチ内に留まっていなくてはならない。
4. キックはコイントスに勝ったチームから始める。

審判

1. 主審、第2審判の2人でレフェリングを行う。共に反則その他に対して笛を吹き、イエローカードやレッドカードを示す。
2. 予選リーグは各チームの割当によって担当していただきます。
3. 順位決定戦はオフィシャルの審判によってジャッジされます。

